

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

地域の伝統文化

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

地域の伝統文化 第20号

平成24年11月発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
編集：専務理事 佐藤 正 俊
住所：〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-9-1
TEL:03-3349-6194
FAX:03-3345-6388
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>



沖縄県豊見城市「高安自治会」(平成24年度助成先)の「籠ゴウ祭」
(ご提供：豊見城市教育委員会)

平成二十五年度
「地域の伝統文化の継承・発展活動」
に対する費用助成希望受付開始

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団では、平成三年六月に財団を設立以来、地域に伝承されてきた「地域の伝統文化の継承・発展活動」とくに後継者の育成に必要な諸活動に対する助成を行なっています。平成二十五年度で二十三回目をむかえます。

これまでに行なった助成は、累計九百二十一件となり、その地域も全国の都道府県に及んでいます。

平成二十五年度も以下の内容により公募を行ないます。

詳細につきましては、全国都道府県の教育委員会または知事部局の文化担当課に送付してあります「平成二十五年度助成申込要領」をご覧ください。

なお、申込要領の詳細は財団のホームページにも掲載しています。

『申込要領の概要』

〔助成対象〕

「地域の民俗芸能」「地域の民俗技術」の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体。

〔助成の条件〕

平成二十五年度(平成二十六年三月まで)に後継者育成を目的とする諸費用(道具整備費、製作材料費、育成研修費、記録保存費用など)の支出を予定していること。その支出を賄うために、外部からの資金協力が緊急不可欠であること。

〔申込手続〕

一、提出書類

- 〔申込書〕(所定用紙)
- 〔推薦書〕(所定用紙)
- 〔活動状況がわかる写真〕
- 〔直近の収支決算書(写)〕
- 〔参考資料〕等

二、申込に際し、「推薦書」に各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係課・文化財関係所管課の推薦・捺印を受けてください。

〔手続日程〕

- 一、申込期限
平成二十五年一月三十一日(木)
- 二、結果発表
平成二十五年三月下旬(予定)

〔選考方法手続〕

提出書類に基づき当財団の選考委員会で厳正に審査し、理事会に答申して決定します。

〔助成金額〕

- 一、民俗芸能への助成は、
一件につき七〇万円が限度
- 二、民俗技術への助成は、
一件につき四〇万円が限度

〔伝統文化分野選考委員〕

- 委員長 岩井 宏實
(帝塚山大学名誉教授)
- 委員 天野 武
(儀礼文化学会名誉会員)
- 委員 小島 美子
(国立歴史民俗博物館名誉教授)
- 委員 田中 宣一
(成城大学名誉教授)
- 委員 田村 善次郎
(武蔵野美術大学名誉教授)
- 委員 西角 井 正大
(日本大学大学院講師)
- 委員 渡辺 行信
(当財団評議員)

〈敬称略〉

Ⅱ 特別寄稿Ⅱ

『国風（くにぶり）』の表象Ⅱ 伝統文化

民俗学者

岩井 宏 實

（当財団伝統文化分野選考委員長）

岩井宏實先生略歴



一九三二年、奈良県生れ。文学博士。立命館大学大学院文学研究科日本史学専攻修士課程修了。大阪市立博物館主任学芸員、国立歴史民俗博物館教授・民俗研究部長、帝塚山大学教授・同大学長、大分県立歴史博物館長など歴任。現在、国立歴史民俗博物館名誉教授、帝塚山大学名誉教授、大分県立歴史博物館顧問。

主な著書・監修に、『地域社会の民俗学的研究』『環境の文化誌』『民具の博物誌』『絵馬』『曲物』『看板』『民具の博物誌』『民具の世相史』『民具の歳時記』『民具学の基礎』『旅の民俗誌』など多数。

『伝統文化』それは悠久の「国風（くにぶり）」の表象である。国風というのはその国々（地方・地方）の特色ある風俗・習慣・気風である。国風の「風」というのは魂を振ること、そこに住む人間の魂の作用である。この国風をあらわす言葉として早くから使われたのが「風土」である。「風土」という言葉が初めて出てくるのは「萬葉集」であるが、天平三年（七三一）の養老年間の「養老令」を解釈した「令義解」に「風土」という言葉が出てきて、「物を養い功なり風と言うなり。座して万物を生ずるを土と言う」と、風土とは何かという解釈が出てきた。この風土を纏めたのがほかならぬ『風土記』であった。

すでに和銅五年（七一三）に『古事記』が完成、養老四年（七二〇）に『日本書紀』が編修されているが、これらはいずれも時間軸で記した、いうなれば歴史書である。それにたいしていわゆる空間把握を旨として国撰されたのが『風土記』で、地方のことを書き記した書物、言うなれば地誌で、しかも今日言うところの人文地理的な記述が軸になっている。したがって民俗学・風俗史学の立場からもきわめて重要である。

この『風土記』はまず和銅六年（七一三）元明天皇の詔によって、諸国・各地方の状況を記述させ、延長三

年（九二五）に提出させ纏められたのであった。その調査項目は五項あり、まず国の中の郡・郷の名前を記せ。それは二字が好ましい。次に郡内にどんなものがあるか、郡内の産物を挙げよ。その産物については農産物よりも、それ以外の特に自然の採取物はどんなものがあるのかというものを挙げよ。それから物産品目を挙げよ。その次に土地はよく肥えているかどうか。農耕は可能かどうかを記せ。さらに山、川、原野、いわゆる自然地の地名と由来を挙げよ。

そして最後に言っているのは、その当時の地域の古老の相伝する、いわゆる伝承を記せということ、この部分は『風土記』のなかで重要な部分を占めている。すなわち古老の伝承でその地域の特色を見ることができ、言うなれば地域の文化的特色を知る重要な方法として古老の伝承を記述せよということ、今日の民俗学の基本的な方法とまったく同じである。

なお、国の設定についてはいろいろの変化はあるが、天武天皇の時代には五十八カ国で三つの島。元正天皇の養老五年（七二二）には六十九カ国で三都一個の島。聖武天皇の天平十五年（七四三）には六十一カ国で一個の島。淳和天皇の天長元年（八二四）に六十六カ国二都となり、六十六カ国というのは淳和天皇の時代に決まるわけである。もちろんそれ以降も国割りにいくぶん変化はあるが、それは風土的特性の変化によるものであったことはいうまでもない。

言うなれば生活環境、すなわち今言うところの風俗・習慣・気風など、いわゆる土地柄を基礎として国割りがなされた。さらに国の中の郡・郷においてもそれぞれ土地柄を尊重して区割りされている。すなわち郡風・郷風ともいうべきものが行政区割設定に尊重されたのであった。したがって郡・郷のもとでの村の設定も、当然そうした

観念が生かされていたことも想像に難しくない。

もちろん、律令時代以降、幾度か郡・郷の区割りも変わり、ことに中世後期においては郷村制・町組制なる村・町の自治体連合が生まれた。また近世には藩制が敷かれ、さらに近代には府県・郡・町村制によって再編されて今日に至るが、実際はよく見るとかつての国の個性、郡・郷の個性、村・町の個性は生き続てきた。とくに今日言うところの伝統文化なるものもそれぞれの時代・共同体の個性を基礎にしている。

いわゆる「国風」であり、中世における「郷風」、中・近世における「村風」を基礎として伝承されている。したがって伝統文化ことに民俗芸能・民俗技術なるものは、基本的には古く『風土記』の時代の「国風」を、またそれ以降の生活共同体を構成した「郷風」さらに「村風」を今日に伝える重要な文化であるといえる。

いま一例を挙げると、現在の大阪府は摂津国・河内国・和泉国より成る。摂津国は淀川とその支流による湿地文化地帯であり、河内国は生駒山と浪速海に臨む山麓文化・平地文化地帯であり、和泉国は乾田地帯の溜池文化地帯である。それぞれの特性に応じて生活上のための民俗技術が創造され、民俗芸能が生産・伝承されてきた。

また奈良県は大和国一國で成るが、中世に河川水利を軸として自治的村落たる惣村が連合して郷村を形成した。この郷村は強固な連帯意識をもち、共通の民俗技術を醸成、またよく知られた踊りが生成・伝承されてきた。これは幕末の「おかげ踊」にも展開するものであった。こうした例は随所に見ることができる。

東日本大震災の被災地域を対象とした 特別助成の実施について

昨年三月に発生した東日本大震災における被害状況は、新聞・テレビなどあらゆるメディアで報道され、その被害の大きさに驚くばかりでした。

その後、徐々に復興に向けた活動が紹介されるなかで、永く伝承されてきた地域の民俗文化の被災状況、とりわけ民俗芸能などに欠かせない獅子頭や笛、衣装などの諸道具類が津波によって流され、祭礼行事の復活の目途が立たないという記事も多く紹介されました。

また、避難所生活や仮設住宅への入居もあつて、地域住民が離散した状態から、住民の不安を少しでも軽くし、笑顔を取り戻し、将来に向けて地域の絆を一層深め、復興へ向けて一步を踏み出していくためにも、祭礼行事等の一日もはやい復活が必要であるとの報道もありました。

そうしたなか、当財団は、ちょうど設立二十周年を迎えたことから、記念行事として「伝統文化の継承と保存の重要性」をテーマとしたシンポジウムを計画し、その準備に着手したところでした。被災地の状況を知り、シンポジウムの開催を中止して、その費用を含めて被災地域の民俗文化等の復活に向けた支援を行なうことを計画し理事会の承認を得ました。

【震災特別助成枠について】

対象：今回の震災により直接的な被害を受けられ、かつ、民俗芸能および民俗技術の復興に向けて緊急に助成を必要とされている団体・個人
助成枠：一団体に付き五十万円を上限として一〇団体程度
公募方法：岩手県、宮城県、福島県の教育委員会等を通じて募集を実施

そして、平成二十四年一月二十七日に応募を締め切った結果、一三件の申込みがありました。

平成二十四年二月二十一日に開催された、当財団の伝統文化分野選考委員会において、一件が助成対象候補として選出され、三月八日開催の理事会で助成団体として決定されました。

（なお、それ以外の二件については、当財団の助成対象範囲外の申込みであったため見送りとなりました。）
そして、本年十月までに対象十一団体に対して助成が完了いたしました。

今回助成を受けられた保存会の皆さんが、震災前の状態まで戻られるには、まだまだ多額の費用と努力が必要と思われまふ。当財団の今回の助成が、今後の本格的な復活に向けた一歩になることができれば幸甚です。

なお、当財団の特別助成は、財団の財政状況から本年限りの実施となりました。

【助成対象団体・継承する民俗文化】

- ◆門中組振興会・門中組虎舞（岩手県）
- ◆片岸虎舞保存会・片岸虎舞（岩手県）
- ◆小室契約会・小室浜の獅子舞（春折村）（宮城県）
- ◆浪板虎舞保存会・浪板虎舞（宮城県）
- ◆磯草虎舞保存会・磯草虎舞（宮城県）
- ◆大谷大漁唄い込み保存会・大谷大漁唄い込み（宮城県）
- ◆長塩谷南部神楽保存会・長塩谷南部神楽（宮城県）
- ◆大室南部神楽保存会・大室南部神楽（宮城県）
- ◆相川南部神楽保存会・相川南部神楽（宮城県）
- ◆川原田神楽保存会・川原田の神楽（福島県）
- ◆飯岡ばやし日の出会・お囃子（千葉県）

団体名	門中組振興会		所在地	岩手県大船渡市
設立年月	昭和30年（1955）		会員数	132戸
伝承行事・芸能	門中組虎舞		代表者	会長 新沼 利雄氏
活動概要	明治年間に従来の踊りを改め、勇壮な虎舞として中森熊野神社の4年に1回の式年で演舞。元旦に門之浜、中井両地区の全戸を廻り悪魔払いを行う。県内外のイベントへの出演や、地域小中高生への演舞、演技を指導している。			
助成目的	津波で流出した道具・衣装類を保管する屋台倉庫購入費の一部として			
今年度の行事	5月4日	「碁石海岸観光まつり」	大船渡観光協会主催	於：碁石海岸レストハウス前
	10月28日	「中森熊野神社式年大祭」	4年に1回開催	於：熊野神社境内
	11月3日	「大船渡郷土芸能まつり」	被災した9団体参加予定	於：リアスホール



<平成23年10月16日に開催された東北復興祈願三陸郷土芸能奉演より>

団体名	片岸虎舞保存会	所在地	岩手県釜石市
設立年月	平成10年	会員数	50人
伝承行事・芸能	片岸虎舞	代表者	会長 柏崎 育也氏
活動概要	三陸沿岸の虎舞発祥地・山田町から伝わり200年間継承する片岸虎舞。4演目を大太鼓・小太鼓・横笛・手平鉦の囃子に合せて舞う。旧暦9月8、9日に片岸稲荷神社に奉納している。老若男女が集落を挙げて参加する。		
助成目的	津波で流出した踊り子用前掛け購入費の一部として		
今年度の行事	10月13日、14日	「片岸虎舞」 本来は片岸稲荷神社にて踊り始めるが、今回は町民を仮設集会所に集め踊りを披露復活する。 於：14日昼。仮設集会所、他、数少ないながら片岸を守ってくれている町民へ、お礼を兼ねて披露。	
	未定	「しわ稲荷神社へのお礼」 虎頭1体をお借りしたお礼 於：しわ稲荷神社	
	参加希望中	「遠野祭り」 虎頭を復興させるために色々、製作材料をさがしていただいたので、遠野祭りへの参加を希望している 於：遠野祭り会場	



<平成24年10月14日に開催された片岸虎舞より>

団体名	小室契約会	所在地	宮城県石巻市
設立年月		会員数	28戸
伝承行事・芸能	小室浜の獅子舞（春祈祷）	代表者	契約会会長 佐藤 林昭氏
活動概要	春祈祷の獅子舞を継承。旧暦2月10日に家内安全・悪疫退散・火伏せを祈る。大きな耳・顔の獅子に、ヒョットコ面の「じゃらかし」が絡むのが十三浜地区の特徴。集落28戸中17戸が仮設住宅で暮らす、行事再開を目指している。		
助成目的	流出した獅子頭・獅子用幕購入費の一部として		
今年度の行事	10月	「秋祭り」 五穀豊穡を願い、神主に奉納してもらう。 於：小室五十鈴神社	
	2月3日	「春祈祷（獅子舞）」 悪魔払い。地区の平和を願い、地区内全戸を回り歩く。 於：小室地区内全戸	



団体名	浪板虎舞保存会	所在地	宮城県気仙沼市
設立年月	昭和41年（1966）	会員数	216戸
伝承行事・芸能	浪板虎舞	代表者	会長 昆野 文男氏
活動概要	漁師海洋に出漁している家人の無事帰還と大漁を祈願する虎舞を継承。笛・太鼓の囃子に合わせ、三人立の虎がトラバカシに導かれて高い梯子を登るのが独特。各神社の祭礼・みなとまつりの他、結婚式や新年会、新造船の安全祈願などに随時出演している。		
助成目的	流出した半纏および篠笛整備費として		
今年度の行事	8月11日、12日	「気仙沼みなとまつり」 気仙沼市をあげて行われる代表的なまつりで、第1回から欠かさず参加。昨年は震災で『みなとまつり』は中止、今年は新たな特製の梯子を用いて勇壮で力強い虎舞を披露。 於：気仙沼市街地（街頭パレード）	
	8月26日	ねんりんピック宮城・仙台2012 PRイベントin気仙沼 於：気仙沼市民会館	
	10月13日	ねんりんピック宮城・仙台2012 総合開会式メインアトラクション演技披露 高さ5mからの勇壮な虎舞を披露。 於：仙台市陸上競技場	
	1月20日	「初舞」 区民の家内安全と生活向上、虎舞の益々の発展に加えて一日も早い復興を祈願する。奉納後に懇親会開催。 於：飯綱神社境内	



<平成24年8月26日に開催された『ねんりんピック宮城・仙台2012 PRイベントin気仙沼』より>

団体名	磯草虎舞保存会	所在地	宮城県気仙沼市
設立年月	昭和46年（1971）	会員数	90戸
伝承行事・芸能	磯草虎舞	代表者	会長 小野寺 清次氏
活動概要	9月に開催される気仙沼大島神社祭典に奉納する虎舞を継承。長さ10mの梯子をトラックの荷台に設置し、斜めに立てた台を1頭の虎が勇壮に登り、地上では2頭の虎が舞う。打ち囃子や太鼓のリズムに独特の工夫がなされている。		
助成目的	流出した虎頭製作・太鼓台購入費として		
今年度の行事	9月15日	「大島神社秋季祭典」 大島神社の神輿渡御に巡行して、大島地区内10ヶ所程で奉納する演芸として、磯草虎舞を行う。 於：大島島内各所	



<平成24年9月15日に開催された「大島神社秋季祭典」より>

団体名	大谷大漁唄い込み保存会		所在地	宮城県気仙沼市
設立年月	昭和56年（1981）4月		会員数	36人
伝承行事・芸能	大谷大漁唄い込み		代表者	会長 及川 善正氏
活動概要	昭和初期に大謀網による鮪漁が本格化した頃始まった大漁唄い込みが、労働歌として定着。漁法が変化した昭和56年に継承のため保存会を設立。平成に入り、公民館の事業として組込まれたのを機に女子会員の踊りを含めた継承活動を展開中。地域の慶事等で披露。			
助成目的	流出した長半纏・大漁旗・幟購入費として			
今年度の行事	4月21日	「ふれあい広場」 ほうねん座との共演で、仮設住宅入居者等の方々とのイベントを実施。 於：気仙沼市本吉町天ヶ沢仮設住宅集会所		
	4月29日	「気仙沼港供給電源復旧式」 津波により被災した漁船への電気供給設備が復旧し、そのお披露目があり祝う会に参加。 於：気仙沼港 港町岸壁		
	5月5日	「東京銀座柳まつり」 要請があり、今回は初出演。 於：銀座歩行者天国		
 <平成23年11月15日に開催された「宮城県食と観光キャンペーン」東京大手町サンケイビル前にて>				

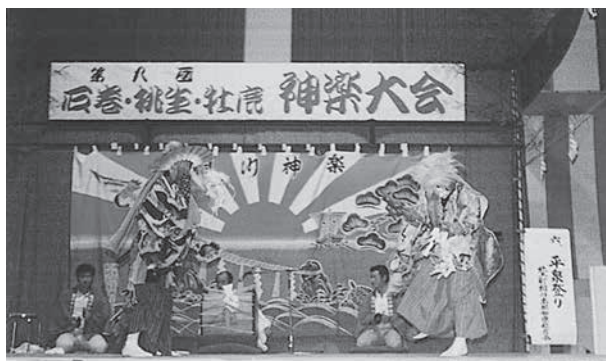
団体名	長塩谷南部神楽保存会		所在地	宮城県石巻市
設立年月	昭和57年（1982）4月		会員数	28戸
伝承行事・芸能	長塩谷南部神楽		代表者	会長　千葉　東造氏
活動概要	旧北上町十三浜の長塩谷集落の契約講において青少年の健全育成のため、登米・本吉両郡に伝わる神楽を指導したのが発端。県内では盛んな神楽だが県北海岸部には少なく、南部神楽成立期の芸態が随所に見られる点で注目される。特別の行事に特定の演目を舞う。			
助成目的	流出した締太鼓購入費として			
今年度の行事	1月	「練習会」　神事としてではなく純粋に地域の伝統芸能として継承されてきたため、地域の神社等への奉納は実施していない。地区内の特別行事に披露する演目として、「五条橋」の練習を実施する。　　於：しらさぎ台コミュニティーセンター		
	隣接する南部神楽3団体（長塩谷・大室・相川）が歩調を合わせて、平成24年度より復活を目指して練習を開始した。			
				

団体名	大室南部神楽保存会	所在地	宮城県石巻市
設立年月	大正7年（1918）	会員数	20人
伝承行事・芸能	大室南部神楽	代表者	会長 佐藤 利喜夫氏
活動概要	大正10年（1921）、旧磐井郡大津保村（現一関市）より伝わり、藤沢流端山神楽という独特の流儀を伝承しており、県内神楽の歴史上、重要な神楽。旧北上町大室地区の青年たちが神楽団を結成し、近隣の社の祭りにも参加している。		
助成目的	流出した締太鼓購入費として		
今年度の行事	震災前と同様なすべての道具・衣装を揃えて、人前で披露するには3～5年は必要。ただし、最低限の道具・衣装があれば1～2演目は可能と思われ、1年後の舞台復活を目指し、平成24年度より練習を再開。		



<昭和62年9月に行われた「旧河北町尾ノ崎地区神楽奉納」より>

団体名	相川南部神楽保存会	所在地	宮城県石巻市
設立年月	昭和51年（1976）1月	会員数	17人
伝承行事・芸能	相川南部神楽	代表者	会長 佐藤 清治氏
活動概要	大正12年（1923）、旧登米郡東和町の飯土井神楽から伝授された。飯土井神楽初代の道山流と2代の流派である鹿島流を合わせた鹿島・道山流という独特の流儀を伝承する重要な神楽。地元の祭典や石巻・桃生・牡鹿神楽大会に毎年参加。		
助成目的	流出した締太鼓購入費として		
今年度の行事	9月	「石巻・桃生・牡鹿神楽大会」 演目「鞍馬破り」	
	10月7日	「相川熊野神社祭典」 演目「三番叟」「岩戸入」「五條の橋」	
	3月10日	「相川小刀平神社祭典」 演目「三番叟」「楠公父子の別れ」「楠公湊川合戦」	



<昭和59年9月9日に開催された「第8回石巻・桃生・牡鹿神楽大会」より>

団体名	川原田神楽保存会	所在地	福島県南相馬市
設立年月		会員数	40戸
伝承行事・芸能	川原田神楽	代表者	会長 佐藤 利則氏
活動概要	江戸期から天照皇太神宮の例祭日（1月16日・9月1日）に奉納する神楽を継承。8年間途絶えて平成23年1月に復活したが、大震災で社殿と神楽用具全てが流失。氏子の家屋も全て流出し、原発警戒地域となり立ち入りができない。		
助成目的	流失した神楽・鈴・衣装購入費の一部として		
今年度の行事	南相馬市小高区は原発事故の警戒区域解除後も宿泊は禁止されたままで、ライフラインの復旧も進んでいない。川原田地区では津波被害にあった神社や民家の片付けも進んでいない状況である。民俗芸能の早期の公開を目指しているが、行事・公開等の予定はまだ決まっていない。		



<平成23年1月10日に開催された「天照皇太神宮初祈禱奉納神楽」より>

団体名	飯岡ばやし 日の出会	所在地	千葉県旭市
設立年月	昭和50年（1975）1月	会員数	26人
伝承行事・芸能	お囃子	代表者	会長 高野 真一氏
活動概要	利根川流域（小見川・佐原）の山車文化に漁師町銚子の威勢の良さが加わったお囃子が飯岡地区に伝承。大震災で会員も被災した。地区の例大祭の他、仮設住宅への慰問やチャリティ演奏などを積極的に展開している。		
助成目的	太鼓2面の張替・補修費用として		
今年度の行事	7月15日	「八幡神社例大祭」 区が主催。地元青年会主体の八幡睦が中心となり町内を神輿で渡御。休憩時にはお囃子を4、5ヶ所で演奏する。 於：平松岡区内	
	8月14日	「平松岡納涼祭」 区が主催。青年会が出店、日の出会はお囃子、育成会及び子供会が手踊りを担当。子供会希望者はお囃子に合流。 於：平松岡青年館	
	9月23日	「あさひのまつり」 旭市内のお囃子・神楽・その他伝統芸能団体が一堂に会し、持時間内で演奏を披露しあう。交流を通じて互いに切磋琢磨し、会の向上心や継承活動に大いに役立つ。 於：東総文化会館	



<平成23年9月25日（日）あさひのまつり>



<平成24年9月23日（日）あさひのまつり>

寄 稿

伝統技術の継承者育成

栃木県佐野市

天命鑄物伝承保存会

代表 若林 洋一

(平成二十四年度助成先)

◇天命(命) 鑄物とは

栃木県佐野市は、東京から北へ七〇キロの所にあり、鑄物の産地として発展した町です。佐野は明治時代以前、地名を天明(古くは天命)と云ったので、この地で造られた鑄物製品をすべて、天命鑄物と呼んでいます。

天命鑄物の歴史は古く、平安時代の天慶二年(九三九)、下野の国の豪族であった藤原秀郷が、有名な鑄物師を日本の鑄物発祥の地である河内の国から、佐野に移住させたのが始まりとされています。

約千有余年の歴史と伝統を持つ天命鑄物は軍器鑄造から始まり、鍋・釜・風呂釜などの生活用品、農耕用スキ・クワなどの農耕具などを鑄造し、販路を拡大しました。

さらに室町時代に入って造られた茶の湯の釜(天明釜)を初め、寺院の梵鐘・仏像などの工芸品が有名となり、江戸時代中期、天命鑄物は全盛期を迎えたのです。

写真に示す「天明釜」と「釣燈籠」は天命鑄物の代表的作品で、いずれも国指定重要有形文化財に指定されています。



しかしながら、明治から大正時代に入ると、川口などの後進の鑄物生産地に押されて、昔日の姿をなくしました。現在、佐野市内の鑄物業者は十社程となりましたが、千有余年、その伝統技術が脈々として今日まで守り継がれてきたことは、特筆に値することです。

最近になって、天命鑄物発展への機運が、行政側と市民の間で盛り上がりつつあることは喜ばしい限りです。

◇天命鑄物伝承保存会の活動

平成十九年、私共は、左記の目的で天命鑄物伝承保存会を設

立しました。(現会員三七名)
(一) 天明(命) 鑄物の貴重な歴史と伝統を、一人でも多くの人に伝える。

(二) 古来の鑄造用具・資料を整理、保存し、文化財として後世に遺す。

(三) とくに若い世代の天明鑄物に対する理解と関心を深めるための教育と啓蒙活動を進めて、後継者育成に力を盡くす。

(四) 研究会などにより、天命鑄物発展と継承の道を、様々な角度から模索する。

「天命」と「天命」について。

最近では、一般的な呼称として天明の字が用いられますが、千有余年の歴史の中で天命と云われた時代が長く、優れた作品が多く造られています。古い歴史と伝統技術を重んじる当保存会の呼び名は、天命の方がよりふさわしいと考えました。

今回の後継者育成への取組は、前述の天命鑄物保存会活動の(三) 項に該当するものです。

◇栃木県指定有形民俗文化財について

天命鑄物の作品は、前述の如く茶釜、仏像、梵鐘、仏具や鳥居など多岐にわたり、独特の芸術性を持っています。佐野市内だけでなく、国指定・県指定・市指定文化財が三〇数点あります。が、天命鑄物の優れた伝統技術を直接伝えてくれる鑄造用具や資料が文化財として指定された例は殆どありませんでした。

今回の助成対象となった後継者育成教育現場でもある若林鑄造所には、四代目当主である故若林彦一郎氏(筆者の叔父)に

よって、約一万点に及ぶ鑄造用具や資料が保管されています。



当保存会は、佐野市教育委員会の指導を受けながら、一作品毎に詳細なデータ取りを行い一四五三点に絞り込み、栃木県有形民俗文化財の指定を得ることができました。写真に示す「大ゴシキ」は、明治時代に使われた熱風式溶解炉で、創業当時の姿で現存する貴重な文化財です。若林鑄造所には、この他に、溶解作業時に炉に風を送る「タラ板」が二基保存されていますが、そのうちの二基は、国内に現存する中で寸法が最大であることが、専門家の調査により



明らかになっています。

◇天命鑄物の後継者育成

日本における鑄物づくりは、前述のごとく西暦七〇〇年頃、河内国丹南郡(現在の大阪府)で始まったというのが通説で、天命鑄物の起源は、河内国に次ぐ二番目です。

最近、天命鑄物の古い歴史と、伝統のすばらしさを知る人が減少しており、とくに若い世代の市民の中に、鑄物という言葉さえ知らない人が増えています。当保存会は、後継者育成について設立時から深い関心を持ち、近隣の小中学生を主な対象として鑄造実習を行なってきました。

平成二十四年度後継者育成講座が、七月から始まりました。受講者は小学六年生から二五歳までの六人で、来年三月まで、一四回の基礎講義と鑄造実習を行なう予定です。現在進行中ですが、また将来的には、用具を保管、展示できる資料館の建設を目指したいと考えています。

寄 稿

続けよう、囃子と獅子舞

東京都杉並区
高井戸囃子保存会

会長 内藤 松幸
(平成二十四年度助成先)

◇東京・杉並区の西南部、甲州街道の宿場町

私たちの活動の場である上高井戸は、甲州街道の最初の宿場町・高井戸宿として、慶長九年(一六〇四)に定められました。その後、次第に宿場町としての形を整えてきましたが、江戸日本橋からの距離が四里(十六キロ)と短いために休憩だけの旅人が主であり、街の賑いはやや少なかったようです。

また、周辺住民は農業を主としていたため、宿場を二つに分けて上高井戸宿と下高井戸宿が交互に大名行列の継立(つぎたて)など行事を分担しました。その半面で良かった点は、区内でも農地が残る素晴らしい住環境が今も残っていることです。

◇囃子の伝承

江戸時代末期、下高井戸八幡宮の宮司であった斉藤近太夫によって、当地に船橋流早間の囃子が伝えられたのが始まりです。

さらにこの囃子は甲州街道に沿うように近辺にも広く伝播し

ました。杉並区内では大宮前、世田谷区の甲州街道に近い北部地域、さらに調布、府中などで現在も演奏されています。



また、明治時代前半に刊行された書物「祭礼囃子の由来」によれば、明治二十三年(一八九〇)に行われた明治憲法発布の記念式典では、皇居前広場に全国各地から囃子連が集まって競演し、その際当地区の囃子連も参加したと伝えられています。

◇囃子の継承

しかしながら、第二次大戦中とそれに続く戦後の混乱期には、何かと囃子の継承に苦労さ

れたと先輩の方々から伺っています。幸いにも、当地区は空襲の被害も比較的軽く、囃子連のメンバーも無事であったため、いち早く活動を再開することができました。

その後は順次メンバーも入れ替り、昭和四十九年(一九七四)には保存会を設立しました。

さらに昭和五十七年(一九八二)、杉並区が新たに文化財保護条例を制定した際には、他の三団体とともに区登録文化財の保持団体に認定されました。以来毎年開催される杉並郷土芸能大会では、技の継承と公開、普及のために中心的役割を果たしています。昨年十一月開催の第二七回大会には十二人が出演し、約三〇分間にわたり高井戸囃子を演奏しました。

保存会結成以来火曜日を練習日と定めて、毎週欠かさずに夜二時間半の練習を行っています。また、六年前には、地域からの強い要望を受けて幼稚園から小一の子どもたちを入会させました。現在では太鼓はほぼ全員がマスターしましたので、次のステップとして笛の練習も行っています。さらにその後継者として、三、四人程度の小学生を募集して育成を行う予定です。

◇活動の状況

活動の中心になる行事は地元第六天神社の祭礼で、毎年九月第二土、日曜日に行われます。

土曜日の宵祭りでは、午前中に祭りの神輿巡行の先達に使う山車の組立を行います。午後は神主さんの御霊うつしの後、神社に向き、神楽殿で囃子、獅子



子舞、子どもたちのもどき、おこめの舞いを奉納しています。日曜日の祭礼当日は正午に町内の神酒所をスタートし、神輿、子どもたちの山車の先導となり祭礼を盛り上げています。

また、今年も区内の大宮八幡宮の秋の大祭にお招きをいただき、九月十六日(日)には神楽殿で朝から終日演奏し、午後六時から神輿の合同宮入の応援をして喜ばれています。

十一月の杉並区農業祭では、セレモニーの前奉、その後獅子舞を演じ、行事を盛り上げるよう頑張っています。

二月には地元の老人施設・浴風園の節分にお招きをいただき、囃子、獅子舞を披露して、入所している老人の皆さんに喜ばれています。

その他にも改修工事が終わった高井戸区民センター祭り、地元の集会所祭りの開所式での演奏も行っています。今年もたくさんの方の場所からお



招きをいただきました。頑張ってくださいと思います。

◇今後の道は

今回の受賞により道具等の心配がなくなりこれからは後継者の育成が大きな課題です。囃子連にとって一番大切なことは笛の演奏者を残していくことです。幸い我が会では四十代以下で四人のメンバーがおり一安心です。小学生も高学年になり笛の練習にも頑張っていますがクラブ活動等で厳しい部分もあります。皆で育てるという気持ちで失わず、先輩達の労苦に報いていければと思っています。

寄稿

先人の遺跡猪垣を守ろう

愛知県岡崎市

万足平を考える会

会長 河合 行郎

(平成二十四年度助成先)

◇万足平の猪垣の所在地

連日の猛暑の中、豊かに育った稲に穂が出揃ってきました。山と山に囲まれた山間部の中の唯一の広い面積を持つ耕作地が、万足平(まんぞくだいら)です。この耕作地を獣害から守るために、山裾に沿って延々と猪垣(ししがき)が連なっています。山間に延びる長い石垣はまるで三二万の長城です。



◇農民の苦しみと猪垣の工夫

この猪垣のある岡崎市中金町万足平は、市東南部の旧額田町の男川上流地域に位置します。

田畑の収穫物を猪、鹿、猿などの野生動物に荒らされるのは、今も農民には大きな悩みで

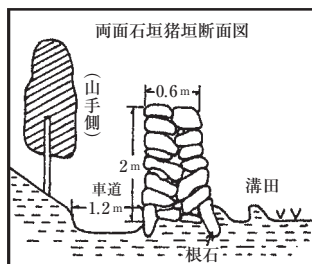
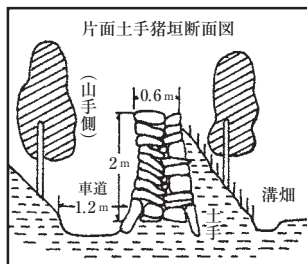
す。また江戸期には年貢の上納があり、極めて深刻な問題でした。

享保三年(一八〇三)、石原村庄屋宛の嘆願書に農民による苦しみが窺えます。訳文によれば「私どもが困っていることは、以前から猪、鹿、猿等がたくさん出て、作物を食べ荒らしてしまふことです。山間の田畑がみな荒らされて、つぶれてしまふ百姓もおります。村のみんなで相談してお金を借りて石垣(猪垣)などを積んでいますが、毎年修理が必要で、年中見張りや夜回り番などもありますが、極めて山中の村のために、石垣を積んだ中までも荒らされてしまふようなありさまです。……農民たちが苦しんだ末、考えつき、造りあげたのが猪垣です。男川流域は石英雲母片岩地帯で、平たくて加工がしやすく、猪垣を積み上げるのに適した領家片麻岩が多く産出しました。

◇万足平の猪垣の構築

古文書によれば、文化二年(一八〇五)と天保三年(一八三二)の二度行われました。猪垣の西側は亀穴(宮崎)の吉五郎が積み立て、東側は百姓が総出で行い、田畑の耕作面積に応じて石積みを負担しました。当時の先人の強い思いが六一メートルにわたり延々と繋がっています。

猪垣は高さが二メートル以上で、さらに内側をわずかにそらせてあり、高度な技術が取り入れられています。(図表参照)



また、安定をはかるために基礎部分には大きな「根石」が埋め込まれています。猪垣の山手側には、すべて一・二メートル幅の溝(車道)が続いており、猪や鹿の飛び越え防止と、石を運搬する「ずんざり車」の通路としても利用されています。

◇先人の遺跡を守る活動を展開

名工吉五郎による素晴らしい出来栄と、他にない長い猪垣の存在により昭和五十六年(一九八二)に愛知県より有形民俗文化財に指定されました。しかし時代の風雪には耐えがたく、周辺は笹や草竹などに覆われ、猪垣自体も自然崩落や崩れた箇所が猪、鹿の通路となり、崩壊がひどくなってきました。そこで、平成十五年に、地元

会の主な活動は
一、猪垣の保全に関する補修
二、草刈り、枝打ち、ごみ清掃
三、男川、乙川沿いの植樹
四、草木の手入れ、施肥、消毒除
五、地域住民への防犯意識の高
六、目的達成に関する研修など
会の活動が活発化するに伴い
が増え、様々な職業の方が参
加されるようになりました。
当初は、夏季の周辺の草刈り
や竹の伐採が主体になり、石積
み作業に日数が取れませんでした。
た。それでも年々積み重ねる毎に、
確実に修復作業が進みました。



誰も石積み経験が無かったため、専門の石工職より指導を受けて作業に取組みました。また、県の文化財関係部署の諸先生方からも指導を受け、補修活動を続けてきました。使用される領家片麻岩の大きさや形が適した石を選ぶのも、最初は容易ではありませんでした。材料の多くは猪垣の周りに崩れたまま残っていますのでそれを活用し、土の中に埋もれた石も掘り出します。不足分は、近くの山の林道開発作業からなど機会ある毎に石を確保します。さらに、山裾に沿った急傾斜な部分も修復が必要です。まず、

◇次世代へ引き継ぐ

会員には年配者が多いため、今後は猪垣の存在と会の活動について、広く外部の方や若い世代に理解を得るよう努めます。市教育委員会の協力を得て、親子文化財教室を開催して石積み体験を実施しました。十一月には、地元の小学生にも予定しています。夏休みには大学生のボランティア活動の一貫として石積み体験に多くの方々が参加し、会員との交流を図りました。



私たちの先人が地元で造り上げた遺跡をしっかりと形に残したい。今の時代に引き継がねばならない。その存在さえ知らない、目にしていたこともない猪垣をぜひ見ていただきたい。そして江戸時代の農民たちが生活の中で苦勞して築いた貴重な遺産の存在を広く知ってほしい。万足平を考える会の活動が、地元の活性化になり、田舎と町との地域交流が深まることを期待しております。

平成3年～24年 都道府県別伝統文化助成先一覧(1)

* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先		助成先	
				平成5年度助成(35)		平成3年度助成(29)	
山形県	西川一座	徳島県	猿坂獅子組保存会	北海道	ヤイユウカラの森 *	北海道	石崎奴保存会
福島県	上三坂のやっつき踊り保存会	愛媛県	八幡丸運営委員会		新十津川町獅子神楽保存会		厚岸かぐら保存会
茨城県	あんば囃子保存会	高知県	宮谷堂の口あけまつり保存会	青森県	新山権現保存会	青森県	紙漉沢獅子踊保存会
栃木県	宗田獅子舞保存会	福岡県	四三嶋獅子廻し実行委員会	岩手県	上郷伝統工芸研究会 *		七戸町郷土芸能保存会
群馬県	沼田祇園囃子保存会連合会	長崎県	館浦須古踊り保存会		赤沢芸能保存会	岩手県	白浜剣舞保存会
千葉県	仁組獅子舞保存会		大島村盆踊振興会	宮城県	宮崎獅子舞保存会	宮城県	とよま囃子保存会
東京都	ふるさと資料館建設推進委員会 *	熊本県	中江岩戸神楽保存会子供神楽部会	秋田県	中野七夕保存会	山形県	今利一郎氏(深山和紙製造) *
神奈川	仙石原神楽保存会	大分県	重岡岩戸神楽保存会	山形県	堀内伝承文化保存会	群馬県	岩島麻保存会 *
新潟県	赤玉文化財保存会	宮崎県	村所神楽保存会	栃木県	山岡和三郎氏(日光下駄) *	東京都	説経節の会
富山県	八尾町曳山保存会		佐々木寛治郎氏(手漉き和紙) *	群馬県	大神楽獅子舞保存会		秋川歌舞伎保存会
	時の会・福野の過去・現在・未来 *	鹿児島県	蓬原熊野神社神舞保存会	埼玉県	明覚郷流鎗馬保存会	新潟県	神谷地域ビデオ収録委員会
福井県	加茂神社上宮の神事	沖縄県	伊江村民俗芸能保存会	千葉県	野田津久舞保存会	福井県	越前万歳保存会
山梨県	大久保文化財保存会	平成7年度助成(43)		神奈川	大谷芸能保存会	長野県	木曾漆器保存調査会 *
	沢登六角堂切子保存会 *	北海道	月浦獅子舞保存会	石川県	能登の湯浜式製塩保存会 *	岐阜県	大井文楽保存会
長野県	成就神楽囃子保存会		釧路アイヌ民芸企業組合 *	福井県	花山行事保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
奈良県	阿島傘の会 *	青森県	沼崎念仏鶏舞保存会	岐阜県	岐阜県地歌舞伎保存振興協議会	奈良県	石打太鼓踊保存会
岐阜県	串原歌舞伎保存会	岩手県	小梨芸能保存会	愛知県	甚目寺説教源氏節人形芝居「もくもく座」	和歌山	大島水門祭保存会
愛知県	(財)平野町町政会	秋田県	戸沢さら保存振興会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *
三重県	一色町能楽保存会		鷹巣町綴子太鼓上町保存会		二木島祭保存会		島後久見神楽保持者会
	深野和紙保存会 *	山形県	遊佐のアマハグ保存会	滋賀県	吉身祭礼保存会	広島県	比和町郷土芸能振興会
大阪府	船待神社神楽子供獅子踊り保存会		峠ノ山八幡神社弓祭協賛会	兵庫県	福田お幡入れ法伝哉伝承保存会		金城一国斎後継者池田昭人氏 *
兵庫県	廣峯神社無形文化財保存協議会	福島県	葛尾三匹獅子保存会	和歌山	土生八幡神社お頭保存会		西原上十二神祇神楽保存会
奈良県	南都見籠会	栃木県	大沢田太々神楽保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *	徳島県	中村園太夫座人形浄瑠璃
鳥取県	馬佐良申し上げ祭り保存会	千葉県	佐原囃子保存会		中野神楽保存会	福岡県	加布里山笠保存会
島根県	伝承ホーランエンヤ馬湯權伝馬保存会	新潟県	片野尾歌舞伎保存会	広島県	八千代神楽団		新多神相撲保存会
岡山県	川上町渡り拍子保存会	富山県	八尾町曳山保存会	山口県	鷺の舞保存会	長崎県	大村龍踊り保存会
広島県	阿刀神楽保存会	福井県	糸崎寺佛舞保存会	徳島県	森藤獅子舞保存会	大分県	木牟田子供神楽保存会
山口県	陶の腰輪踊り保存会		福谷区大火勢保存会	香川県	中山農村歌舞伎保存会	宮崎県	諸塚神楽保存会
愛媛県	お簾踊保存会	山梨県	藤木道祖神祭保存会	高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会		大人歌舞伎保存会
高知県	遼・三番双保存会	長野県	信級中原流太々神楽囃子保存会	福岡県	内野地区老松神社獅子舞保存会	平成4年度助成(34)	
福岡県	流鎗馬武徳会	岐阜県	高雄歌舞伎保存会	長崎県	坂本浮立保存会	北海道	安浦駒踊り保存会
佐賀県	蔵上町民俗芸能保存会	三重県	深野和紙保存会 *	熊本県	上井出神社奉納楽保存会		長沼町勇獅子舞保存会
長崎県	鬼木鐘浮立保存会	滋賀県	岩熊区雅楽保存会	大分県	大行事八幡宮(カッパ)踊保存会	岩手県	妹背牛町獅子舞保存会
熊本県	南阿蘇長野岩戸神楽保存会	大阪府	能勢町人形浄瑠璃実行委員会	宮崎県	村所神楽保存会		上郷伝統工芸研究会 *
大分県	天間地区公民館		堺式手織段通技術保存協会 *	鹿児島県	東郷町文弥節人形浄瑠璃保存会		伊藤流行山鹿踊保存会
宮崎県	広原神楽保存会	兵庫県	熊野神社裸祭り保存会	平成6年度助成(40)			鷹生郷土芸能保存会
鹿児島県	柏の始式保存会	鳥取県	新田人形浄瑠璃芝居相生文楽	北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会 *	宮城県	金津七夕祭保存会
沖縄県	武富旗頭復元実行委員会	島根県	鹿子原の虫送り踊り保存会		鬼鹿松前神楽保存会	秋田県	大葛山民俗芸能保存会
平成9年度助成(47)			出雲民芸紙工房 *	青森県	鮫神楽保存会		前山郷土芸能保存会
北海道	雷公神社神楽会	岡山県	壬生農村歌舞伎保存会	岩手県	上郷伝統工芸研究会 *	山形県	押切神楽保存会
青森県	田子神楽保存会	広島県	常定神楽継承団体「戸山会」		石橋鑑剣舞保存会	神奈川	民具製作技術保存会 *
岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会	山口県	別府岩戸神楽舞保存会		夏井大梵天神楽保存会	山梨県	下部温泉神楽保存会
宮城県	嵯峨立神楽保存会	徳島県	犬飼農村舞台保存会	宮城県	矢本町塩入神楽保存会	岐阜県	岐南町伏屋獅子舞保存会
秋田県	森岳歌舞伎保存会	香川県	家の浦二頭獅子舞保存会	秋田県	尾去沢からめ節保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
山形県	小田島田植踊保存会	愛媛県	大江山保存会	山形県	北條郷総鎮守獅子冠事務所		一色町能楽保存会
福島県	北部先囃子若龍会	高知県	野市町立山神社棒術獅子舞保存会	茨城県	柿岡からくり人形保存会		三田市オンナイ保存会
栃木県	芦沼獅子舞保存会	福岡県	平八月祭り保存会	東京都	西川古柳座	兵庫県	淡河八幡播州音頭踊り保存会
群馬県	沼須人形芝居保存会あけぼの座	佐賀県	西塩谷面浮立保存会	富山県	五ヶ種チャンカレ踊り保存会		池尻神社人形狂言保存会
千葉県	野田津久舞保存会	長崎県	武雄流鎗馬実行委員会	石川県	柏野じょんがら保存会	奈良県	龍口獅子舞保存会
神奈川	宮城野獅子舞保存会	熊本県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会		能登の湯浜式製塩保存会 *	鳥取県	日南神楽 神光社
新潟県	警女唄ネットワーク	大分県	久連子古代踊り保存会	福井県	だのせ祭り保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *
	越後弥彦手仕事倶楽部 *	宮崎県	丸山俵楽保存会	山梨県	美和神社太々神楽保存会		隠岐いづり鳳保存会 *
富山県	八尾町曳山保存会	鹿児島県	今西三段打太鼓踊保存会	長野県	日吉御鋳様祭り保存会	広島県	備後かすり学習会 *
石川県	小松市歌舞伎愛好会	鹿児島県	入来麓疱瘡踊保存会	岐阜県	白鳥拝殿踊り保存会		羽佐竹神楽団後援会
福井県	和久里壬生狂言保存会		佐仁八月踊り保存会	三重県	大淀祇園祭保存会	山口県	鷺の舞保存会
長野県	仁科神明宮神楽保存会		中村悦子氏(芙蓉布復元) *	大阪府	貝塚東三吉馬保存会	高知県	船戸花取踊保存会
岐阜県	新楽舎獅子舞保存会	平成8年度助成(43)		兵庫県	青田神楽保存会	福岡県	大分の獅子舞保存会
静岡県	島田帯祭保存会	北海道	留萌岩戸神楽保存会		誠語会	佐賀県	嬉野町今寺面浮立保存会
愛知県	古出来町神社奉賛会		(財)アイヌ民族博物館 *	奈良県	真国御田保存クラブ	長崎県	鷹島町島踊保存会
三重県	長太鯨船保存会	青森県	古懸獅子舞保存会	和歌山	アリエ・グリンヌ *		萩田浮立保存会
	なすび団扇継承保存会 *	岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会	鳥取県	赤塚神楽佐義利保存会	大分県	武都都神楽保存会
	深野和紙保存会 *		平組はしご虎舞保存会	島根県	江の川水系漁撈文化研究会 *	宮崎県	潮嶽神楽保存会
滋賀県	綿向神社雅楽「楽人座」	宮城県	武鎗鹿踊保存会	広島県	名荷神楽団		初木白太鼓踊り保存会
京都府	棚倉孫神社瑞饋御興保存会	秋田県	鷹巣町綴子下町太鼓保存会	山口県	徳地人形浄瑠璃保存会	鹿児島県	三島村八朗踊保存会
			鳥田目番楽保存会				

都道府県別伝統文化助成先一覧(2)

* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先		助成先	
兵庫県	宗教法人 廣峯神社	茨城県	西金砂神社田楽舞保存会	大分県	国東神楽社	平成9年度助成(続き)	
奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会＊	群馬県	平出歌舞伎保存会	宮崎県	綾町宮原地区唐人踊り保存会	京都府	久多の山村生活用具保存振興会＊
和歌山	熊野速玉大社祭事保存会	埼玉県	日進餅つき踊り保存会	鹿児島	伊崎田和紙保存会＊	大阪府	貝塚三夜音頭継承連絡会
鳥取県	江波三番叟保存会	神奈川県	NPO法人小田原鑄物研究所＊	鹿児島	鹿兒島市中山下虚無僧踊保存会	兵庫県	播州音頭踊保存連合会
島根県	都神楽団	新潟県	城腰花笠踊保存会	沖繩県	草戸原	奈良県	安堵町なもて踊り保存会
岡山県	地域伝統工芸がませごの会＊	富山県	岩瀬まだら保存会	平成11年度助成(48)		和歌山	高芝の獅子舞保存会
広島県	神根神社獅子舞保存会	山梨県	八潮祭下町屋台保存会	北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会＊	鳥取県	福栄伝統芸能保存会
	磐門神楽団	長野県	小菅柱松神事保存会	青森県	徳別町アイヌ民族文化保存会	島根県	民谷神楽団
山口県	郷之崎神楽団	愛知県	大治太鼓保存会	宮崎県	龍神社法霊神楽保存会	岡山県	大賀島大智明権現保存会
	山崎八幡宮 本山神事保存会	三重県	能田徳若万歳保存会	岩手県	山内神楽保存会	広島県	江波漕伝馬保存会
徳島県	大俣じょうれい 踊り保存会	滋賀県	ゆうづる会＊	宮城県	城内野神楽会	徳島県	高川原勇獅子保存会
愛媛県	河内口説保存会	兵庫県	大江羯鼓踊保存会	秋田県	城生野神楽会	香川県	東かがわ市白鳥虎頭舞保存会
福岡県	野間獅子連中	奈良県	下笠町参弥礼踊保存会	山形県	大沢郷椒沢番楽保存会	高知県	土佐の暮らしの文化を守る会
	浮羽町石垣保存実行委員会＊	鳥取県	さいれん坊主保存会	福島県	越沢伝統芸能保存会	福岡県	松会保存会
佐賀県	佐賀錦振興協議会＊	島根県	月ヶ瀬奈良晒保存会＊	茨城県	海老根伝統手漉和紙保存会＊	佐賀県	飯田面浮立保存会
長崎県	西神野玄蕃一流浮立保存会	広島県	田口水分神社奉讃会	栃木県	豊景神社太々神楽保存会	長崎県	若宮稲荷神社 竹ノ芸保存会
	千代田中部小学校 高志狂言保存会	山口県	竹田さいとりさし少年団	福島県	日枝神社流鏝馬保存会	熊本県	中窪田神楽保存会
熊本県	大浦区舟グロー保存会	島根県	追神頭打供盛団	山梨県	上井田獅子舞保存会	大分県	野々河内神楽保存会
大分県	菜ノ花会＊	広島県	養山八幡の吹囃子行事保存会	群馬県	奥平神社獅子舞保存会	宮崎県	高城町徳満坊あげ馬保存会
	相良吾平阿蘇神社伝統神楽保存会	山口県	柳井縞の会＊	埼玉県	深作ささら獅子舞保存会	鹿児島	徳重大太鼓(ゴツク・楽器製作)＊
宮崎県	産島八幡宮海を渡る祭礼保存会	徳島県	祝島神舞奉賛会	東京都	江戸消防彩粋會	沖繩県	泡瀬京太郎保存会
鹿児島	板井迫神楽保存会	香川県	坂州若連中	新潟県	杉野沢民俗芸能保存会	平成10年度助成(47)	伊波貞子氏(メジャー・織物)＊
沖縄県	虚無僧踊保存会	愛媛県	ひょうげ祭り保存会	富山県	福光ちよんがれ保存会		
那覇市	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)＊	高知県	野市町立山獅子舞芸術保存会	石川県	上井田獅子舞保存会	北海道	穂別町アイヌ民族文化保存会
	津波古獅子蹴跳保存会＊	福岡県	川名津神楽保存会	福井県	美浜町和田区	岩手県	白符荒馬踊保存会
平成14年度助成(48)	那覇市首里汀良町獅子舞保存会	佐賀県	一の宮万歳保存会	山梨県	中之倉神楽保存会	山形県	丹内金津流鹿躍保存会
北海道	篠路歌舞伎保存会	長崎県	吉木芸能保存会	長野県	日野多慶子氏(願法寺の絵解き)	宮城県	行山流鹿踊保存会
青森県	入口青年会	三重県	立岩浮立保存会	滋賀県	曽原獅子舞保存会	秋田県	山伏神楽保存会
岩手県	彦部郷土芸能保存会	島根県	馬渡鉦浮立保存会	大阪府	油日神社奴振り太鼓踊り保存会	山形県	雄物川町岡本新内伝承会
宮城県	板用肩怒剣舞保存会	長崎県	土井丸浮立保存会	兵庫県	吉志部神社小路保存会	群馬県	五城目町民俗芸能保存連絡協議会
秋田県	河南鹿嶋ばやし保存会	熊本県	大浦区舟グロー保存会	奈良県	大蔵谷獅子舞保存会	石川県	横岡サエの神保存会
	君萱若松神社神楽会	大分県	嵯峨島オーモンデー保存会	和歌山	吉野山青年団御田植神事保存会	福井県	平田さしこの会＊
山形県	東長野ささら保存会	福岡県	福山神楽保存会	鳥取県	小川郷土芸能保存会	徳島県	猿田彦神社大和神楽保存会
福島県	南陽市古代織りの伝統を守る会＊	佐賀県	放生会委員会	島根県	芦津獅子舞保存会	京都府	大宮神社獅子舞保存会
茨城県	白鳥神社太々神楽保存会	宮崎県	北原人形芝居保存会	広島県	御霊会風流保存会	神奈川	海南神社面神楽保存神楽師会
栃木県	真家みたまおどり保存会	鹿児島	伊形花笠踊り保存会	山口県	幸崎町能地春祭保存会	新潟県	湯川五社神社俗人会
群馬県	上横倉の獅子舞保存会	沖繩県	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)＊	徳島県	数方庭保存会	石川県	木津豊漁太鼓保存会
埼玉県	千本木龍頭神舞保存会	平成13年度助成(50)	下小原八月踊保存会	香川県	阿波木偶箱廻しを復活する会	福岡県	若狹町三宅六斎念仏保存会
千葉県	沖内囃子保存会	北海道	大川青年会	愛媛県	さぬき農村歌舞伎祇園座保存会	長野県	今庄羽根曾踊保存会
東京都	野田津久舞保存会	青森県	謝名アヤチ獅子保存会	高知県	高知獅子保存会	岐阜県	内山柱松保存会
神奈川県	手作り絹研究会多摩織部会＊	岩手県	ペーパーン福島踊り保存会	福岡県	長命講伊勢踊	三重県	若松友志会
富山県	相模里神楽垣澤社中	宮城県	高館駒踊り保存会	佐賀県	土佐歌舞伎伝承会	滋賀県	栗谷念仏踊り保存会
福井県	諏訪神社獅子舞保存会	秋田県	小袖漁撈唄保存会	長崎県	今津人形芝居保存会	京都府	老杉神社頭屋行事保存会
山梨県	諏訪神社獅子舞保存会	山形県	湯屋神楽保存会	熊本県	嘉瀬之浦獅子浮立保存会	徳島県	伊根町立石区
長野県	じじぐれ祭保存会	福島県	筆甫神楽保存会	大分県	森鉦浮立保存会	香川県	久多の山村生活用具保存振興会＊
岐阜県	下市之瀬獅子舞保存会	茨城県	八沢木獅子舞保存会	宮崎県	西大村浮立保存会	大阪府	野間出野秋祭り保存会
愛知県	表門神社神楽保存会	鹿児島	福米沢送り盆保存会	鹿児島	樺木神楽保存会	兵庫県	多可町中央公民館播州歌舞伎クラブ
三重県	木賊獅子舞保存会	沖繩県	ハツ沼大名行列組合	和歌山	高沢組太鼓踊り保存会	奈良県	祭文音頭保存会
滋賀県	有道しゃくし保存会＊	北海道	両原早乙女踊り保存会	鳥取県	五馬本村楽保存会	和歌山	木本八幡宮の御田祭保存会
兵庫県	伝承知多木綿つものき＊	山梨県	東金砂神社田楽舞保存会	島根県	尾八重神楽保存会	鳥取県	円通寺人形芝居保存会
奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会＊	富山県	大沢田太々神楽保存会	広島県	久留 平氏(太鼓製作)＊	島根県	出雲大社数神代神楽波積支部波積神楽団
和歌山	藤白の獅子舞保存会	神奈川県	上泉獅子舞保存会	山口県	津貫中間豊祭太鼓踊り保存会	岡山県	今田町内会
島根県	南本通吉兆行事保存推進協議会	新潟県	長安寺六字詰念仏講中	徳島県	平出水太鼓踊り保存会	広島県	横野和紙工業協同組合＊
岡山県	白明会＊	富山県	二田物部神社神楽舞保存会	香川県	佐敷町津波古獅子蹴跳保存会＊	徳島県	比和町郷土芸能振興会
広島県	大朝飾り牛保存会	福井県	今庄羽根曾踊保存会	愛媛県	保榮茂自治会	香川県	つるぎ町天の岩戸神楽保存会
山口県	徳佐はやしだ保存会	山梨県	湯原神社式三番保存会	高知県	平成12年度助成(49)	高知県	香翠座デコ芝居保存会
愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)＊	岐阜県	外倉獅子舞保存会	岩手県	掛淵奴保存会	福岡県	弓削雨乞踊保存会
福岡県	水田天満宮稚児風流保存会	愛知県	高桑太鼓保存会	宮城県	目名神楽保存会	高知県	西畑人形芝居保存会
佐賀県	戸ヶ里浮立保存会	三重県	金沢歌舞伎	秋田県	上郷しし踊り保存会	福岡県	鐘崎盆踊り振興会
長崎県	祖子分面浮立保存会	滋賀県	なすび団扇継承保存会＊	山形県	塚沢早池峰神楽保存会	佐賀県	真手野舞浮立保存会
	滑石竜踊保存会	京都府	「てんでん」保存会	福島県	和洩法印神楽保存会	長崎県	嬉野町温泉区面浮立保存会
		大阪府	古高鼓踊り保存会	秋田県	秋田市太平山谷番楽保存会	熊本県	黒丸踊保存会
			天満神社相撲保存会	山形県	沢渡獅子舞保存会		目丸棒踊り保存会
			樫井西青年団	福島県	海老根伝統手漉和紙保存会＊		本町虫追い太鼓を考える会
					八槻都々古別神社楽人会		

都道府県別伝統文化助成先一覧(3)

*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先		助成先	
熊本県	柳別府太鼓踊り保存会	福島県	会津万歳安佐野保存会	滋賀県	ずいき祭保存会	平成14年度助成(続き)	
大分県	深山流朝地神楽保存会	茨城県	片野排禍ばやし保存会	京都府	丹後藤布振興会*	熊本県	菜ノ花会*
宮崎県	郷之原芸能協賛会	栃木県	興野ささら獅子舞保存会	大阪府	大阪太鼓文化研究会*	大分県	九州相良古代踊り下免田保存会
鹿児島	鯨島健志氏(加世田の鍛冶)*	群馬県	泉沢町郷土芸能保存会	兵庫県	小五月祭(棹の歌)保存会		佐伯市宇目酒利獅子保存会
	如竹踊り保存会	千葉県	万作踊り松戸保存会	鳥取県	賀露神社麒麟獅子舞保存会		下込祇園囃子保存会こども祇園囃子
沖縄県	古見民俗芸能保存会	東京都	美山町鯨獅子舞保存会	島根県	須佐神楽保存会	宮崎県	行膝町白太鼓踊り保存会
平成20年度助成(40)		神奈川県	あつぎひがし座	広島県	小原大元神楽 小原神楽団		六日町ヨイマカ保存会
北海道	寿都松前神楽保存会	石川県	加賀万歳保存会		南方の万灯保存会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
青森県	上十川獅子踊保存会	福井県	舟寄踊保存会	香川県	肥土山農村歌舞伎保存会		鯨島健志氏(加世田の鍛冶)*
岩手県	都島田植踊保存会	愛知県	きねこさ祭保存会	愛媛県	豊茂五ツ鹿踊り保存会	沖縄県	大浜青年会
宮城県	日高見流浅部法印神楽保存会	滋賀県	椿神社流鏑馬保存会	高知県	西諸木花取踊り保存会		今泊棒術保存会
秋田県	鳥海山小滝舞楽保存会	大阪府	大阪欄間工芸協同組合*	佐賀県	広瀬淳立保存会	平成15年度助成(35)	
山形県	舟渡公民館	兵庫県	仁色長持保存会	長崎県	太田尾地藏祭飾そうめん保存会*	北海道	剣淵神楽保存会「剣龍会」
福島県	北萱浜神楽愛好会	和歌山	糸我郷土伝統芸能保存会		戸根淳立保存会	青森県	大川原の火流し保存会
栃木県	下鉢石町自治会	鳥取県	美成地区	熊本県	加勢川開発研究会合せ打保存会*	宮城県	山田大名行列組合
	宝積寺白鬚神社雅楽部	島根県	野石谷伝統芸能保存会		下里白太鼓踊り保存会	秋田県	湯船保存会*
群馬県	椿名神社太々神楽保存会	広島県	諸木郷土芸能保存会	大分県	萩神社俚楽		根子番楽保存会
埼玉県	脚折雨乞行事保存会	徳島県	多田健二氏(阿波木偶人形制作)*	宮崎県	太郎坊べぶ踊り保存会	山形県	吹浦田楽保存会
千葉県	岩沼の獅子舞保存会	香川県	香翠座デコ芝居保存会	鹿児島	入来神舞保存会	群馬県	行田獅子舞保存会
東京都	田無ばやし保存会	福岡県	豊前感応楽保存会	沖縄県	新川青年会	千葉県	バツパカ獅子舞保存会
神奈川県	海南神社行道面保存会	佐賀県	西牟田区子供こし・鉦浮立保存会	平成17年度助成(37)		神奈川県	長谷ささら踊り盆唄保存会
新潟県	他門神楽保存会	長崎県	平島ナーマイドー保存会	青森県	青森ねぶた正調囃子保存会	石川県	輪島市本町キリコ奉賛会
	半田神社神楽舞保存会		ききつ船津ペーロン保存会	岩手県	大ケ生山伏神楽保存会	岐阜県	数河獅子保存会
富山県	八口諏訪社獅子舞保存会	熊本県	竹迫観音祭保存下町分会	宮城県	大船渡喜多会	静岡県	富士宮囃子保存会
山梨県	大垣外獅子舞保存会		栖本町郷土芸能保存会	秋田県	新城の田植踊保存会	愛知県	ちんところ祭委員会
岐阜県	美濃歌舞伎保存会	大分県	保戸島伝統芸能保存会	山形県	赤田獅子舞保存会	三重県	本郷「かいこ」踊り保存会
静岡県	掛塚屋台囃子保存会	宮崎県	熊襲踊保存会	福島県	蔵岡延年の舞保存会	滋賀県	志那中サンヤレ踊り保存会
愛知県	六ツ師獅子舞保存会		細野一區輪太鼓踊り保存会		館早乙女踊保存会	京都府	二箇上区
三重県	生桑町長松神社鏡餅奉納会	鹿児島	小島棒踊り保存会	茨城県	木目沢三匹獅子保存会		阿良須神社練込保存会
	曾原獅子舞保存会	沖縄県	中間棒踊り保存会	栃木県	日立郷土芸能保存会	兵庫県	魚吹八幡神社武神祭保存会
滋賀県	篠田の火花保存会*	平成19年度助成(39)		栃木県	三本木獅子舞保存会	奈良県	尾山萬歳保存会
大阪府	だいがく保存会	北海道	寿都松前神楽保存会	埼玉県	辻の獅子舞保存会	和歌山	椎出の鬼の舞保存会
奈良県	川西町保田自治会	青森県	大平大神楽	千葉県	岩沼の獅子舞保存会	鳥取県	貴布禰神社麒麟獅子舞保存会
和歌山	ねんねこ祭保存会	岩手県	法領田獅子踊り保存会		中野獅子保存会	島根県	見々久神楽保持者会
山梨県	岩野原獅子舞保存会		羽山神楽保存会	東京都	幸田羯鼓舞保存会	広島県	枝の宮田楽団
岡山県	福石神楽団	宮城県	浪板虎舞保存会	神奈川	矢部八幡宮獅子舞保存会	徳島県	つるぎ町一字雨乞い踊り保存会
広島県	名字獅子舞保存会	秋田県	鳥海山日立舞横岡番楽保存会	福井県	田村ばやし保存会	愛媛県	佐田岬製織り保存会*
	五日市芸能保存会	山形県	幸生区・三地区契約会	山梨県	蔵生区自治会		客天弓祈禱保存会
徳島県	後山からくり換絵保存会	福島県	浮島神社太々神楽保存会	長野県	高尾山徳見神社神楽保存会	高知県	狩山豊年踊保存会
香川県	流水灌頂法要保存会		糠塚三匹獅子保存会	熊野神社祭囃子保存会	熊野神社祭囃子保存会	福岡県	求菩提山お田植祭保存会
福岡県	下町獅子山保存会	栃木県	芦沼獅子舞保存会	桐原獅子舞保存会	桐原獅子舞保存会	佐賀県	仁比山神社大御田祭御田舞保存会
長崎県	上原淳立保存会		山本政史氏(日光下駄製作)*	愛知県	牧野鳴念仏踊り保存会	長崎県	上戸石町芸能保存会
熊本県	川島神楽連	群馬県	貝沢西組獅子舞保存会	三重県	白塚町通夜講	熊本市	西安寺神楽保存会
	都呂々獅子舞太鼓踊り保存会	埼玉県	下日出谷餅搗踊り保存会	滋賀県	渋川花踊り保存会	大分県	大恩文化財愛護少年団
宮崎県	入下神楽保存会	千葉県	八幡神社の獅子舞保存会	兵庫県	住吉神社水無月祭打込囃子保存会	宮崎県	唐瀬子供神楽会
鹿児島	前野田植民謡保存会	東京都	星竹囃子連	奈良県	田原地区伝統芸能保存会	鹿児島	田之浦山宮神社神楽保存会
沖縄県	船浮民俗芸能保存会	新潟県	内島見神楽保存会	和歌山	春駒保存会	沖縄県	いしやなぎら青年会
平成21年度助成(42)		石川県	二所宮獅子舞保存会	島根県	矢上田植ばやし保存会	平成16年度助成(36)	
北海道	大船南部神楽保存会	福井県	長畠日向神楽保存会	広島県	羽佐竹神楽団後援会	青森県	片岸えんぶり組
青森県	乳井獅子保存会	山梨県	藤木道祖神祭保存会	福岡県	八女市土橋八幡宮神幸行事保存会	岩手県	田東剣舞保存会
岩手県	四ツ堰鹿子踊り保存会	長野県	山新田太神楽保存育成会	佐賀県	川内淳立保存会	宮城県	廿一田植踊保存会
	村崎野大乗神楽保存会	愛知県	名古屋港筏師一本乗り保存会		三都区	秋田県	黒川番楽保存会
宮城県	中新田火伏せの虎舞保存会	三重県	矢浜神楽保存会	長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会	山形県	羽黒山松例祭若者衆
秋田県	梅内郷土芸能保存会	滋賀県	大原学区豊年太鼓踊り保存会	熊本県	宝川内志賀段七踊り保存会	福島県	昭和村からむし織後継者育成事業
福島県	渡戸高野・鯨組	京都府	田山花踊り保存会	大分県	田原獅子保存会		一実行委員会*
栃木県	文挟流手岡獅子舞講中	兵庫県	小野原住吉神社神舞保存会	川内棒踊保存会	川内棒踊保存会	栃木県	尾ざく獅子舞保存会
群馬県	新井八幡宮獅子舞保存会	岡山県	栗井春日歌舞伎保存会	鹿児島	久見崎盆踊り「想夫恋」保存会	群馬県	赤城町古典芸能保存会
埼玉県	北袋囃子連	広島県	長尾神社湯立神楽保存会	沖縄県	天願獅子舞保存会	千葉県	本納滝之谷獅子舞保存会
千葉県	不入斗同志会	山口県	藤生神楽保存会	平成18年度助成(37)		東京都	むさしのばやし保存会
東京都	代々木囃子保存会	徳島県	上八万伝統文化を守る会	北海道	元更別大國神社石見神楽保存会	神奈川	三増獅子舞保存会
	山田獅子舞保存会	香川県	賀茂神社長床神事保存会	青森県	斗内獅子舞保存会	富山県	宮崎神楽保存会
神奈川	小向獅子舞保存会	愛媛県	かぶと踊り保存会	岩手県	豊沢大念佛剣舞保存会	長野県	和田中神社太神楽保存会
新潟県	羽森神社神楽舞保存会	高知県	東洋町流鏑馬保存協議会		生出神楽保存会		上駒沢祭典保存会
富山県	棚山獅子舞保存会	熊本県	大浦獅子保存会	宮城県	大曲法印神楽保存会	愛知県	向山神楽獅子保存会
石川県	門前とどろ保存会			秋田県	大湯大太鼓保存会	三重県	水沢お諏訪おどり保存会

都道府県別助成先一覧(4)

* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
山形県	大谷神楽保存会	長崎県	平島盆踊り保存会	平成21年度助成(42)(続き)	
福島県	川原田神楽保存会	熊本県	栖本町郷土芸能保存会	長野県	町区太々神楽実行委員会
	新館太々神楽保存会	大分県	新町自治会	高岡道祖神日待占祭保存会	
	鹿島神社郷土芸能保存会	宮崎県	高木郷土芸能保存会	佐間神楽保存会	
栃木県	天命鋳物伝承保存会*		都城市高城町桜木あげ馬保存会	愛知県	日下部太鼓保存会
群馬県	白瀧神社太々神楽保存会	沖縄県	鳩間民俗芸能保存会	三重県	大江羯鼓踊保存会
埼玉県	下小坂獅子舞保存会	平成23年度助成(42)		滋賀県	中堀町自治会 孔明祈水山保存会
千葉県	飯岡ばやし 日の出会	北海道	糠内獅子舞保存会	京都府	質美下村区文化財保存委員会
東京都	高井戸囃子保存会	青森県	同心町熊野神社神楽連	兵庫県	日吉神社龍王の舞及び祝詞太鼓保存会
新潟県	大谷地和紙保存会*	岩手県	外山神楽保存会		福住下自治会
	蔵王稚児舞の会	宮城県	熊野堂神楽・舞楽・十二神鹿踊保存会	奈良県	八島町六斎念仏講
富山県	加茂神社神事伝承会	秋田県	福嶋サイサイ囃子保存会	和歌山	南道奴行列保存会
石川県	向栗崎悪魔払い保存会	山形県	若宮八幡神社太々神楽保存会	鳥取県	江波三番叟保存会
福井県	多賀区獅子保存会	福島県	杉沢愛宕神社三匹獅子保存会	島根県	八神神楽団
山梨県	中之倉神楽保存会	群馬県	美茂呂町屋台囃子保存会		亀山将氏(足踏み水車の修復)*
長野県	湯原神社式三番保存会	埼玉県	白久串人形芝居保存会	岡山県	宇甘神社獅子舞保存会
岐阜県	河鹿神社賀喜踊保存会	千葉県	旅名自治会	広島県	富士神楽団
愛知県	万足平を考える会*	東京都	鹿島流獅子舞引田保存会	徳島県	赤松煙火保存会*
	村木神社おまんこ祭り保存会		諏訪神社崇敬会	香川県	和田雨乞踊保存会
三重県	戸木東組かんこ踊り保存会	神奈川	川名屋台ばやし保存会	福岡県	上久原白山宮獅子舞保存会
滋賀県	小野町太鼓踊保存会	新潟県	天神林天満宮伶人会	佐賀県	自然と暮らしを考える研究会*
大阪府	深江菅細工保存会*	富山県	田島自治会	長崎県	権常寺浮立保存会
兵庫県	西町獅子舞保存会	福井県	宇波西神社神事芸能保存会	熊本県	竹迫観音祭保存会
奈良県	田原地区伝統芸能保存会	山梨県	山梨岡神社舞子		黒辺田野白太鼓踊保存会
和歌山	堅田祭保存会	長野県	NPO法人小谷山村留学育成会*	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
岡山県	大浦神社	岐阜県	小野八幡神社祭礼運営委員会	沖縄県	黒島民俗芸能保存会
広島県	御調八幡宮花の踊り保存会	静岡県	東光寺猿舞保存会	平成22年度助成(42)	
山口県	上野神楽舞保存会	愛知県	中之切奉賛会	青森県	二ツ森神楽芸能保存会
徳島県	森藤獅子舞保存会	三重県	立神自治会	岩手県	門中組振興会
香川県	安田おどり保存会	京都府	周枳民芸保存会三番叟組	宮城県	佐藤明彦氏(堤人形製作)*
愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*	大阪府	野崎第一地車保存会	秋田県	冬師番楽保存会
高知県	泉川長者花鳥踊り保存会	兵庫県	淡路人形浄瑠璃青年研究会	山形県	西袋獅子踊保存会
福岡県	植木の三申踊保存会	奈良県	神波多神社獅子神楽保存会	福島県	菅波伝統文化継承会
佐賀県	鳥海浮立保存会	島根県	出雲國奏楽錬成会	茨城県	あおき囃子連
長崎県	森山本村郷土芸能保存会	広島県	大朝飾り牛保存会	栃木県	河井獅子舞保存会
熊本県	東浦白太鼓踊り保存会	山口県	お手廻り保存会	群馬県	木崎音頭保存会
大分県	北原人形芝居保存会	徳島県	大谷郷土文化保存会	埼玉県	三若会
宮崎県	不土野芸能保存会	香川県	七宝古流本村夫婦獅子舞保存会		柏合獅子舞保存会
鹿児島	土踊保存会	愛媛県	佐方獅子保存会	千葉県	熊野神社神楽保存会
	童子八月踊り研究会	高知県	大利太刀踊保存会		上本郷獅子講中
沖縄県	豊見城市 高安自治会	福岡県	ぜんでこ踊り保存会	東京都	檜立踊り保存会
累計助成件数 9 2 1 件			平八月祭り保存会	新潟県	川根谷内獅子保存会
		佐賀県	南片白区浮立保存会	富山県	福島青年親交会
		長崎県	馬場本浮立保存会	石川県	小松尾小屋齋保存会
		熊本県	小屋川内獅子舞保存会	長野県	玉依比賣命神社
		大分県	重岡岩戸神楽保存会	岐阜県	加納まちづくり会(和傘製作)*
		宮崎県	花木地区郷土芸能あげ馬保存会	静岡県	巖室神社鎮火祭保存会
		鹿児島	西上太鼓踊り保存会	愛知県	有松天満社文嶺講
		沖縄県	伊平屋村青年団協議会	三重県	牛蒡祭保存会
		平成24年度助成(54)		滋賀県	志賀神社氏子総代
青森県	五戸えんぶり組			大阪府	三ツ松明土行念仏保存会
岩手県	門中組振興会			兵庫県	北野まつり保存会
	片岸虎舞保存会			奈良県	惣谷狂言保存会
	山岸さんさ踊り保存会			鳥取県	向垣神社祭礼行事保存会
宮城県	小室契約会			島根県	御霊会風流保存会
	浪板虎舞保存会			岡山県	佐方子供吉備神楽伝承教室
	磯草虎舞保存会			広島県	おおたけ手すき和紙保存会*
	大谷大漁唄い込み保存会			山口県	山代白羽神楽保存会
	長塩谷南部神楽保存会			徳島県	橘だんじり祭り獅子組
	大室南部神楽保存会			愛媛県	北方獅子舞保存会
	相川南部神楽保存会			高知県	シットロト踊り保存会
	有限会社仙台堆朱製作所*			福岡県	鷹尾神社伝統芸能文化保存維持会
秋田県	秋田万歳保存会			佐賀県	母ヶ浦面浮立保存会

財団案内

財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団(理事長:大島雄次)は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などをおこない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年(1991年)6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	15億2,000万円
事業内容	・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・海外における音楽研修に対する助成 ・国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・地域の民俗芸能(含、民俗行事、民俗音楽)の保存維持、後継者育成のための助成 ・地域の民俗技術(含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸)の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況(平成24年11月現在) ・音楽分野 405人 77,120万円 ・伝統文化分野 921件 49,947万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社